

土砂災害を防ぐ里山づくり！！砂防指定地内において、オオシマ桜などの苗木を植樹しました。

静岡県 静岡土木事務所

平成23年12月9日（金）に、『都市山麓グリーンベルト整備事業』のモデル地区（清水大内モデル地区）である杉谷津沢（すぎやつさわ：静岡市清水区大内地先の県有地）で清水高部小学校の5年生（3クラス約80名）と一緒に植樹作業を行いました。

今回の植樹は、放置竹林等により荒廃した里山斜面を適正に管理することで土砂災害を抑制することを目的に、砂防指定地（杉谷津沢、天白沢など）で県とNPO法人『森と水辺を育てる会』との協働により年十数回行っている活動（竹の伐採や草刈り、植樹等）に賛同した静岡トヨペットが「第36回ふれあいグリーンキャンペーン」（同社、トヨタ自動車主催）として苗木100本を寄贈したことにより、実現したものです。

急斜面で砂防指定地でもあるため、学校側へは児童への安全対策としてヘルメット着用を義務付けていただき、また、事前に山で作業する場合の注意事項をNPO法人『森と水辺を育てる会』から説明するなど安全面を徹底してから植樹を開始したため、怪我や事故がなく安全に植樹が行えました。

当日は、オオシマザクラやシダレザクラ、ヤマザクラ、ソメイヨシノ、コナラ、イロハモミジ、ドウダンツツジの7種類の苗木100本をNPO法人『森と水辺を育てる会』の会員の指導のもと、砂防指定地となっている「杉谷津沢」の斜面に植樹しました。

清水高部小学校の子供達が、大人になった頃には、苗木も大きく成長し、りっぱな里山になるよう今後も、このような活動を続けていきたいと思えます。



植樹の方法や注意事項等について、高部小学校の5年生に説明するNPO法人「森と水辺を育てる会」の大木理事長（杉谷津沢の砂防堰堤前）



NPO法人「森と水辺を育てる会」の大木理事長の説明を聞く高部小学校5年生の子供たち（3クラス約80名）（杉谷津沢の砂防堰堤前）



苗木、肥料などを配布（杉谷津沢の作業小屋前）



杉谷津沢の急斜面で植樹している様子



子供達に指導する「森と水辺を育てる会」の会員



子供達に指導する「森と水辺を育てる会」の会員



協力し合って苗木を植えている子供たちの様子



先生といっしょに苗木を植えている子供たち

このような県と NPO 法人『森と水辺を育てる会』との協働で取り組んでいる“土砂災害を防ぐ里山づくり”に興味がある方は静岡土木事務所（企画検査課）までお問い合わせ下さい。